特220
470

社會教育研究所編

# 戰時下の家庭教育

財團法人 社會教育會

*0053239000*

0053239-000

特２２０－４７０

戰時下の家庭教育

社会教育研究所・編

社会教育会

昭和１７

AHP

特220
470

# 戰時下の家庭教育

研究資料

財團法人社會教育會

社會教育研究所

今や我が國は大東亞共榮圏確立のために大東亞戰爭を展開して居ります。斯る時、か教育の各分野に於ても舊來の殼を脱して、興亞的地盤に立脚した練成訓育がなされねばなりません。殊に第二國民は大東亞的氣宇に滿ちた智能と身體とを併有して、大東亞の建設を完遂すべき負荷の任があるのであります。

然し乍ら第二國民の苗圃たる家庭の影響はその將來に及ぼすところ實に大であのるは敢てこゝに贅言を要しません。こゝに於て當面の吾が大業に處して、維れ新なる觀念の下に如何に家庭教育がなされねばならぬか、その實際の歸趨と之が方途を講ずることの必要を痛感し、その端緒として、本研究所が曩に青木誠四郎氏に委囑せる研究をこゝに發表する次第であります。

社會教育研究所

# 目次

一、戰爭と子供の教育……七
戰時の困難に耐へる子供……戰爭の將來と子供の教育
二、困難に耐へる子供を……一八
困難な生活……喜んで耐へる生活……物資の節約……工夫力の養成
三、體位の向上のために……三四
からだを強くすること……生活の訓練
四、東亞の指導者として……四九
鳴國根性を棄てよ……利己を棄て協同するこゝろ……指導者として

……子供の眼を廣く
五、敵襲に備へて……六一
こゝろの備へ……恐れるな、恐れさせるな……家庭の備へ
六、明るく育てよ……六九
明るい態度……子供には子供の生活を



# 戰時下の家庭教育

青木誠四郎

## 一、戰爭と子供の教育

### 戰時の國難に耐へる子供

わが日本の國が東亞の新らしい秩序を打ち建てるため、その癌と云ふべき蔣介石政權打倒の軍を起してからすでに四年半の歳月を閲しました。その間皇軍將士の身を挺した敢闘によつて東亞の黎明も近きにありと、思はれるやうになつて來ましたが、今曙の太陽に豁然として光を放たしめるために、その根本をもひらき

覆さうとする大東亞戰爭の幕が切つておとされました。いま一億の國民は、この大東亞の明日を迎へるために胸に熱い情熱をたゝへて更に一段の力をこめて猛然とたちあがつたのです。そして、わが勇敢な將兵は、海に陸に文字通りの大捷を博し、國民は心をひきしめ乍ら勝利の勝鬨をあげてゐます。

戰爭は勝たねばなりません。わたくし達はこの大東亞の建設のために戰ひぬくと共に、その目的を完ふするために大きい建設の闘ひをもしなければなりません。國民はこの困難な、併し光榮ある運命を與へられてゐるのです。併し、わたくし達はこの決意と、希望とを靜かに顧みるとき、何よりも自分の持場を堅くして、その持場にたつてこの大事業にすべての國民が水も洩らさぬ協力をしてゆかなくてはならないことを感じます。お母様方は家庭にあつて、家を守り、子供を育てる、その持場を愈々堅くして、この大きい國民的運命を擔ふ一環としての役割を果して頂かなくてはなりません。



さてこの戰爭の眞只中にあつて、お母様方は、子供の教育にどのやうな心構へをもたなくてはならぬでせうか。

戰爭を闘ひぬくのに、何よりも大切なのは國民の一致團結である事は云ふまでもありません。それには國民はまづ政府を信頼し、國家を信頼して、そこに寄りかたまつて一丸となつて進まなくてはなりません。子供の心もまたこの國家を信じ、國家と共に動く堅い心持に充たされなくてはなりません。子供などは、と輕く見ることはできないでせう。たとへば流言のために子供が動かされるやうなことは些細なことだとは云へないものがあるかも知れません。國民の團結が思はぬ針のやうな穴から罅ができないとは云へないからです。それには何よりも、お母様方お父様方が充分に國家を信頼し、子供の心に寸分の隙も作らぬ事を念としなくてはなりますまい。いま、わたくし達は物資の配給、隣組の團結、燈火管制、などさまゞな戰時下に缺くことのできぬことにぶつかつてゐます。これ等につ

いて、喜んで國家の方針に從ひ、しつかり協力してゆく態度は、どれだけか子供達に戰時下の子供としてしつかりした心構へを作ることに力となるでせう。もし物資の配給についてつまらない愚痴をこぼしたり、闇で物を買ひあつめやうなどゝさもしい心を起したり、隣組の團結を輕蔑したり、燈火管制の不便に不平を云つたり管制を怠つたりなどするやうなお母様やお父様があつたら、どれだけ子供の心に面白くないものを植えつけるでせうか。このやうな事は、些細な事のやうに見えますが、子供の心にだん〳〵に食ひ入つてゆく恐ろしさを考へなくてはなりません。

さて、このやうな根本の心構へがあれば、子供はこの戰時下の生活に耐へてゆく力は、自ら培はれて來るものがあると思ふのですが、このやうな中に育てられる子供こそ、また立派な國民になり得るのだと云ふことをも考へて、喜んでこの生活のうちで子供を育てゝ頂き度いと思ひます。例へば物資の缺乏は、戰爭と離



れることのできないことであることは玆に云ふまでもないのですが、この物資の缺乏と云ふ事は、子供の立派な發達のために決して困つた事ではありません。食べたいものを食べ、見度いものを見るやうないはゞ便利な贅澤な生活は、時として人間の意志を弱くすることが少くありません。他日立派な成人とし、立派な國民としてなすある人となるには、子供の時の困苦缺乏は、決して惡いことではないのです。一本の鉛筆も、一枚の紙も無駄にしない。一粒の米も、一片の菜も無駄にしない生活こそ子供の心を玉にする大きい試錬ではありませんか。勿論子供の榮養を乏しくしてよいとは申しません。病氣にかゝつても放つておけとは申しません。併し戰前のやうな、殊に都會の子供のやうな便利と安逸とを、子供のために何とかして保つてゆき度いなどゝ云ふ考は、間違つてゐると云はなくてはなりません。お母様方はこの物資の缺乏こそ子供を鍛へるよい機會と考へ、お母様方自身喜んでこれに耐へ、物資を大切にする態度をもつて頂き度いと思ひます。

例へば電燈をその度毎に點滅することは面倒には違ひありません。併しお母様が「電氣は少しでも儉約して、鐵砲丸を作るお手傳をしませうね」と子供に云つてきかせ乍ら、消すことは、子供達に電氣の節約を喜んでさせる心を作るでせう。お砂糖の缺乏は子供にはこたえる事の一つでせうが、お母様方が、「甘くないけど、少しでも儉約して戰地の兵隊さんにとゞくやうにしませう」とその譯をわかるやうに話してやれば、子供も喜んでそのつもりになるでせう。しかもさう云ふ事が結局子供に缺乏に耐へる强い力を作つてゆくことになるのです。

かうして、お母様方の心持で、子供の生活は强く鍛へられ、しかも喜びをもつて鍛へられてゆくのですが、たゞさう云つた事が、事々しく子供の感情を搖り動かすと云ふ態度でなされない事も大切と思ひます。と云ふのはこの際子供は落ちついておのれの進むべき道を一所懸命に進むことがまた大切なことだからです。わたくしは、戰時なればこそ更に一層落ちついた生活をさせることを望みたいの



です。毎日の生活を規則的にし、勉强を怠らずにし、からだを鍛へて、子供の正しい發達のために缺くべからざる生活を怠らずに注意してゆくことが無くてはならないと思ひます。この際に子供の學問をする力が弱くなつたり、伸び〳〵した子供の生活が無くなつたりするやうなことは最も恐れなくてはならない事と思ひます。子供が戰捷に勝鬨をあげることは當然でせう。併し、その間に子供が空元氣になるやうなことがあつてはならないのです。かう云ふことも子供を見守るお母様方に委ねられた大きい役目で、お母様の心構へも、子供を育てる態度も浮ついたものにならず、しかも暗く無い、おちついたものでなくてはならぬと云はなくてはなりますまい。そしてこの事は戰野に父をおくつてゐる子供については、一層强くその必要が感ぜられるわけです。

さて、子供はかうして、國家を信頼してその日常の生活をしつかりと、しかも心安く、着實な營みで他日の活動の基礎を作つてゆくべきですが、たゞこゝに一

つ、戰時下の子供として、非常な時の訓練は、一つの大切なものとして考へて、かつ實際の導きをしておくことが大切と云はなくてはなりません。例へば今日最もそのおそれのある空襲などに對する實際の訓練がそれです。かう云つた事は急にやつてもすぐに間に合ひません。しかもたゞ空騒ぎをしたのでは訓練にもなりません。常平常の着實な導きが何と云つても極めて大切なのです。

かやうにしてわたくしは、戰時下の家庭の教育は、まづ確乎とした國民としての心構への下にできるだけ堅實な生活を營むやうにすることゝ、いざと云ふ場合の訓練をもつことゝに、まづその着眼をおくべきであると思ひます。

## 戰爭の將來と子供の教育

さて、この未曾有の大戰爭の下にあたつて、かうして子供の心構へを作ることは、まづ考へられなくてはならない事ですが、それと一緒にこの戰爭の將來を考



へ、そこに子供をどうするかと云ふ事を考へた導きがまたなくてはならないでせう。今度の戰爭は國力を誇り、物資の豐富を誇る米、英をどこまでも破らなくてはならないのです。しかも一方には國土の廣大な支那は兵を進めてゆかなくてはならないのです。戰爭は長びくものと覺悟しなくてはならないでせう。十年、二十年を覺悟しなくてはならないと云はれてゐます。さう考へて見ると、十年後二十年後の戰爭は誰が戰ふのですか。いまお母さんの懷に抱かれてゐる赤ん坊も二十年後には立派な第一線にたつ兵士にならなければなりません。又雄々しくも堅い決心をもつて銃後を守る婦人にならなくてはならないのです。まして、國民學校へいつてゐる子供はより一層間近に、中等學校などへいつてゐる子供は、すぐ近くにこの大任を負ふ日が待つてゐるのです。

かう考へると戰時下に子供を育てると云ふことは、いま子供達にどう生活すべきかを導くと云ふに止まらない、この將來の國を荷ふ力をいかにして作るかと云

ふ大きい問題を考へなくてはならないと思ひます。

かう考へる場合わたくし達は子供を育てる上に何を最も考へてゆかなくてはならぬでせうか。勿論この場合にも子供は全體として立派な人間、立派な國民にならなくてはならないでせう。今日まで骨を折つて來た子供の育てるいろ〳〵な目標の一つとして不要なものはありません。たゞ、これまで實際に子供が育てられて來た容子をふりかへつて見ると、そこにまづその力の入れどころを少しく變へて考へなくてはならぬ事があると思ひます。

是迄の家庭教育は、勿論、からだの事を心配し、また性質のことも氣にかけて來てはゐますが、子供が學校へゆくやうになると、とかく學校の成績に氣をとられ、どうしたら成績をよくすることができるかと云ふことに非常に大きい力を入れて來たやうに思はれます。さうなつた結果身體を鍛へたり、性質を鍛へることには力の入れ方が足らなかつたのでは無いでせうか。また力を入れてゐても、身



體の事にはとかく消極的に、病氣をしないやうに、風邪をひかないやうにと、病氣を恐れる方に氣をとられてこれを常平生鍛へることが缺けると云ふ風ではなかつたでせうか。性質についても子供の心を、たゞ傷けないやうに、子供をひがませないやうにと云つたことに注意が向けられて、それを鍛へてゆくと云ふ點が少かつたではないでせうか。

併し戰爭を遂行し、建設を完ふするには、何よりも強い逞しい身體、また逞しい意志がなければなりません。今後の子供を育てゝゆくには特にこの點に力を入れなくてはなりますまい。

かやうに將來この大東亞の新らしい秩序をもりたてゝゆく上に、いま述べたやうに身體と意志を強くしてゆくことは極めて大切なことゝ思はれますが、も一つ大切なことは、この大東亞の新秩序を作る指導者として、その指導者に相應しい氣宇を作つてゆくと云ふことです。これまでわが國の人々の氣持は、でき得れば

にの内地に住み度いといつた氣持で、有爲の人が外地にゆくことを好む風が至つて少かつたやうに思ひます。その開發のためまたその進歩のために大きい立場から献身すると云ふ氣持は何と云つても稀薄であつたことを否めません。今後はそのやうな事があつてはならないでせう。更にまた外地にゆくもの、内地に止るものゝ別を問はず、所謂島國根性をもつてゐるやうではなりません。立派な東亞の指導者としての資質をもつやうにならなければ、新らしい東亞の秩序も望めないと云ふべきでせう。

かうして、いま子供を日本の將來のために育てゝゐられるお母様方は、これまでの教育の態度に、尙身體の增强と、意志の鍛錬と、大國民の素質を作らうとする態度を加へて、新らしい發足をして頂かなくてはならないと思ひます。

## 二、困難に耐へる子供を

### 困難な生活

いま述べたやうに、戰爭は非常な物資を必要とします。ですからその物資が國の中に少くなつて來ることは當然でせう。わたくし達の今日直面してゐる物資の缺乏は、直接、また間接にこの戰爭のために物資が必要であるところから來て居ると云はなくてはなりません。ですから物の缺乏に耐へる、どのやうに不足し、どのやうに不便をしても、それに耐へることができるやうに心を決めて生活してゆくことは、戰爭の目的を遂行してゆくのにはどうしても缺くことのできない事だと云はなくてはなりません。子供の生活にとつても使ひよい紙がない、お菓子がない、靴も前のやうなものは無い、着るものも子供の活動する生活に適したものが無い、と云ふことは、つらい事に相違ないのですが、しかもこれに耐へてゆかなくてはならないのです。

併し前にもいつたやうに、この物が無い、不便な生活を忍ばなくてはならないと云ふことは、子供の態度、ひいては親の態度が、それについて立派なものをもつてゐれば、決して子供の將來にとつて惡いことではありません。さきにも述べたやうに食べたいものはいつでも食べられる。ほしいものはいつでも手に入る。物は濫費してもよいと云ふ風の生活は、子供にたゞ慾望のまゝに動くことを教へ、自分の氣持を押へ、忍耐してゆく事を教へないことが少くありません。それが、子供が自分の目的に向つて努力しなくてはならない、困難を打ち破つて進まなければならないと云ふ時に、どれだけ邪魔な心を作つてゐるかわかりまんでした。御覽なさい。田舍の農村の子供などは、かう云つた物の不自由は、都會の子供などに比べて、比較にならない程でした。おいしいお菓子などは食べたくもありません。便利な學用品などはもちません。使ひよい鉛筆などももつてゐません。毎日遠い道を歩いて通はなくてはなりません。しかも都會の子供に比べて田舍の子供が弱いとか、忍耐心が足りないと云ふことはありません。むしろその辛抱強さ、努力の態度などに於ては、都會の子供に比べてずつと優つてゐるでせう。昔から土地の痩せた、石の多い土地のお百姓程勤勉で、またその中から立派な役にたつ人が出ると云はれ、氣候に惠まれた、土地の肥えたところから却つて立派な人間が出ないとされてゐるのもまたこれと同じでせう。

子供は缺乏、不便の中から強い意志を生むのです。そしてその強い意志こそ人間一生の寶と云はなくてはなりまん。さう考へて來れば、この戰爭の缺乏のもとで育つ子供は、この意志を鍛へる大切な機會を與へられてゐると云ふことができます。わたくし達は、單に戰爭を闘ひぬくためにも、子供達と共に困苦に耐へてゆかなくてはなりませんが、その耐へることが、直ちにまた子供を意志の強い人に育て、將來の國家の負荷を果してゆく資格を作つてゐるものと考へなくてはならないのです。

## 喜んで耐へる生活

併し困難に耐へると云つても、その耐へ方にはいろ〳〵あるでせう。不承不承我慢すると云ふのもあります。仕方が無いと諦らめて我慢すると云ふのもありませう。喜んで耐へると云ふのもあります。かう云ふ中で子供に諦らめを求めると云ふことはまづ困難でせう。子供はさうはつきりと譯がわかると云ふことはむづかしいからです。併し、不承不承斷念すると云ふやうなことが續けば、子供はどうしても萎縮しないではゐません。蔭の暗い子供を作るやうになり易いのです。ですからどうしても子供は笑顔をもつて、喜んで、勇ましく我慢すると云ふのでなくてはなりません。子供はこの氣持で耐へれば、素直な氣持で、しかも忍耐することをおぼえてゆくわけです。

では喜んで耐へると云ふためには、どう云ふ導きが大切でせうか。そこで最も



大切なものは、お母様方又お父様方の心のもち方ですが、それと一緒に子供にも子供相當の國家への協力する考を作つてゆくことをもあげることができると思ひます。

まづ家庭ではお母様が先にたち、お父様も氣持を合せて、この物資の缺乏や、不便に對して喜んでそれに耐へてゆく態度をもつて頂き度いと思ひます。この事はお父様の留守の家庭では殊に強く考へられなくてはならないと思ひます。お父様が出征された場合などは特に不便、不都合が多いからです。この大きい戰爭を長い間してゐるとき、これだけ物があり、飢えることなく暮してゆくことは、何と云ふ幸福なことだらう。これも皆お國のため、陛下の御惠みによるものだと云ふ心をしつかり摑んで、日常の生活についていつも感謝の氣持をもつて頂きたいのです。さうすれば子供は、その心持を素直に受け入れて、喜んで自分の慾望の滿足できないのに耐へてゆくに相違ないのです。もしその反對にお母様がいつも

これに不平をもつやうな氣持をもつてゐたら、子供もその氣持を受けてゆくに相違ないのです。そこに子供は同じやうにこの物資の缺乏に耐へ、困難に耐へるとしても氣持の上には大きい違ひがあるではありませんか。お母様方の國家への信頼と感謝は、かうした子供の教育の根本の心持を作ると云はなくてはなりません。

この心持のもち方は何と云つても最も大切だと云はなくてはなりませんが、それと共に、このいろ〳〵な困難がどうして起つて來てゐるのか、この困難に喜んで耐へてゆくことが、子供達が戰爭に一つの働きをする道なのだと云ふことを解らせることも、大切だと思ひます。勿論これは子供の年齢によつてその解き方は違はなくてはなりません。幼い子供には幼い子供の首肯く程度に簡單に云つて聞かせると云ふ程度でよいでせう。成長した子供には、戰爭に必要な物資を作るために國民が協力しなくてはならぬ事情、あるひは何故この困難が起つて來るかを解らせるやうに努めるのがよいでせう。かう云ふことは幼い子供はそのまゝ受け



取るべきでせうし、成長した子供はそれを納得して、これも自分達が國家に協力する一つの道だと云ふ氣持をもち、そこにまた喜んで耐へる氣持を作る一助となるでせう。

かうして子供達が自分で進んで、「よし、どんな事でも我慢するぞ」と云ふ氣持で我慢をすれば、どんな事にもそれを避けよう、何とかしてどこかで滿足しようと云つたやうな氣持が無くなつて、すべてに耐へるやうになり、それが子供の氣持を鍛へてゆくやうになるのです。子供は十分に自分の滿足する程お菓子を食べなくても、すきな御魚を食べなくても、眞白な紙をつかふことができなくても、破れた靴をはいても、これで自分は國家につくしてゐるのだ、これでなくては立派な日本人ではないと云ふ晴れやかな氣持で、この缺乏に耐へてゆく事ができるでせう。このやうな氣持がすべての子供達にもたれるやうになれば、子供の世界は明朗であるばかりでなく、これによつて子供の意志が鍛へられて、やがて

大東亞の建設に乘り出してゆく國民たるの資格もそこから出て來ると云はれるでせう。

## 物資の節約

子供がこの戰時下の物資の缺乏や、不便に喜んで耐へてゆくことは、まづ第一に必要と思ひますが、このやうな際にある物をも節約すると云ふ態度もまた子供達の態度として求めてゆかなくてはならないところです。一枚の紙も無駄にしない。小さい鉛筆でもそれをつかつてゆく、自分の持物もよく手入をして長もちをさせると云ふ節約の精神は、この際一千萬の少國民に是非とも徹底させなくてはならないと思ひます。しかも亦この節約と云ふことは、子供が面倒なこともいとはず、使ひにくゝも我慢すると云ふ精神を作ると共に、一方自分の生活をつゝましく經濟的に處理してゆくことを導き訓へるのに、またとないよい機會であると



思ひます。

これまでの子供は、物が豐かであつたために、物の有難さがわからず、その生活の仕方には隨分無駄があつたことゝ思ひます。そのために物を消費してゆくのにこれを濫費する傾きを作り、それがいろ〳〵な點で成人になつてまでその生活の上に少くない障害を作つてゐたのでは無いかと思ひます。要りもしないものを買つたり、折角買つたものをあまりに使はなかつたり、少し使ふとすぐに棄てゝ省みなかつた事は、いまこの物の缺乏にあたつて古いものを出して、こんなものもあつた、あんなものもあつたと云ふわけで、是迄の生活の放漫さを反省させてゐることが多いのでわかると思ひます。「それだから今あまり困らずにゐるではないか」と反問される方もあらうと思ひますが、併し、今日のやうな事がなかつたら、それ等のものは無駄になつて隨分勿體ないことをしてゐることになるに相違ないのです。かう云ふ機會にこの無駄を省いて節約することをおぼえることは

一方から云へば實に有難いことゝも云はれるのです。

かう云つた節約の精神と實行とを家庭で培つてゆくにあたつても、やはりその先達にたつのは兩親でなくてはなりません。そしてまたこの場合にもお母様やお父様が先にたつて、共々に節約してゆかれる生活を子供たちに示してゆかれるやうでなくてはなりません。それも決して愚痴をこぼすとか、嘆息するとか、何か不平らしい事を云ふと云つたやうな態度で無く、こゝにも物に感謝して喜んで節約をしてゆく態度が必要なのです。もしお母様方が物を節約しないで子供達だけにこれを說くなどゝ云ふことが萬一にもあつたら、到底節約を子供が實行するなどゝ云ふことはできないでせうし、またお母様方が愚痴を云つたのでは子供も何となく暗い氣持でしか節約はできないでせう。

更にまたこれも缺乏に耐へ困難に耐へる場合と同じやうに、子供によつてそれの理解に相應しくこの戰時下に於ての物への感謝のなさるべき理由を、說明することも、いま述べたお母様の心持を受けた上に、子供の進んで節約しようとする氣持を作る上に役だつと思ひます。

かうして進んで節約しようとする心持は、言ふまでもなくそれを實行してゆくやうな導きをしなくてはならないでせう。食物などは與へられたものを決して殘さないやうに、自分の身につくものは、綻びを縫ひ、手入を十分にしてできるだけその用ひられる間を長くすると共に決してだらしのないことのないやうにし、學用品なども大切にして、最後まで、順序よくつかふやうに、心からな指導をするやうにしたいものです。子供達はかう云ふ實行を通して物の節約をおぼえ、物に感謝する氣持を作つてゆくので、それによつて今日の國家の大行進に參加することができると共に、子供の性格の上にも少からぬ良い結果をもたらすことができると信じます。

## 工夫力の養成

今日國家の直面してゐる大きい時期に、かうして缺乏や不便に耐へ、更に節約を實行してゆくと云ふ事は、その上に子供達にさまざまな工夫をさせてゆくこの上ない機會を與へてゐると云ふこともできるのです。昔から「窮すれば通ず」と云つてゐますが、それは缺乏や不便の起つたときに工夫がよくなされることを語つてゐると云つてよいでせう。實際、わが國にとつて第一次の歐洲大戰は、工業の發達に大きい躍進をした時代でしたが、それはいろ〳〵な物資が外國から來なくなつた缺乏の賜でした。今度の戰爭に於てもどれだけこの缺乏と云ふことから多くの工夫がなされたかは、わたくし達の身の周りを見ただけでもすぐに首肯かれる事です。ガソリンの缺乏のために以前には考へても見なかつたやうな代用燃料によつて、自動車が運轉されてゐるのもそれです。いろ〳〵な代用品の進歩も



目覺ましいものがありますが、これも缺乏からする工夫の現れです。

人間はその生活に必要なものが無くなれば、かう云ふものではどうだらうか、かうしてはいけないだらうかと、一所懸命に考へるものです。そしてあるものを作つて、それを試み、試みては改良を加へ、これを更に試みて改良を重ねて、遂にはその目的を達するものです。困難は工夫を誘ひ、缺乏は工夫を導いてゆくと云ふことができるでせう。ですから、缺乏や困難は一方では忍耐する力を培つて意志を強くし、節約する生活の態度を作りますが、更に進んではこの工夫創作の力をも與へることになるのです。

かう云つたわけですから、この時期に缺乏に惱み、困難に邁進してゐるとき、一方ではこれに耐へ、消極的には節約の精神を作ると共に、子供達に對して、どうすればこの少い物資で十分な生活ができるか、どうすれば不便を便利に轉ずることができるかについて、でき得る限りの工夫をさせるやうに導くことが大切で

す。紙を節約するには、どうすればいちばん節約になるか。鉛筆の短いのを使ふにはどのやうにすればよいか。と云つた小さい事から、進んでは、いろ〳〵な家庭の實際の生活の上に子供の工夫を誘つて見る——たとへば少い燃料でどうしたら物をよく煮ることができるか。家の周圍の空閑地はどんな風に利用するのがよいか、と云つたやうな——と云つた態度が望ましいと思ひます。

凡そかう云つた子供の生活の指導は、今日の困難に耐へて、日本の國の底力を出してゆく上に必要なことですが、これはまた子供が事實に則して、種々な試みをし、物の理を考へ、それを實地に應用してゆくと云つた科學的精神を培つてゆく上にも大きい貢献をすることができると思ふのです。

以上のやうにして、今日の戰時下に於て、困苦缺乏に耐へるいろ〳〵な導きをすることは、今後尙覺悟しなくてはならない——南方新占領地域の物資の豐富はいま、今後の物資の豐富になるやうに考へられてゐますが、それはちよつと考へてゐる程容易な事ではないでせう。むしろ戰爭の繼續は、尙物資の缺乏を覺悟することの方が大切と思ひます。——物資の缺乏をものともしないで、一路戰爭目的の完遂にいそぐ上に極めて大切であるのですが、しかもこの缺乏に耐へ、節約し、工夫するやうに導くことは、子供たちの意志を鍛へ、生活の處理を教へ、科學的な精神を訓練するやうに指導することゝなるのです。それは國民の資質を高めることのできる大きい機會なのです。お母樣方には、このやうな關係を十分に認識して、むしろ喜んでこの困難を迎へて、子供達を指導していつて頂くことが戰時下の家庭の教育の一つの大きい課題であると云ふべきでせう。

## 三、體位向上のために

### からだを強くすること

これは平時に於てもそうですが、殊に戰時下にあつては、家族の健康に留意しなくてはなりません。家庭での人手の不足は、とかく家族の生活殊に子供を見守ることにも不十分になり勝で、病氣に罹り易いのですし、また病氣になるといろいろと物資の困難で、より一層困難が重なりませう。それはお母様の勢力の大きい消耗になり、ともすると危險な事にもならぬと云へないやうな事になるでせう。ですから、まづ家族の健康、子供の健康にはできるだけ常平生の注意を怠たらぬこと、丈夫に育てることがこの場合何より大切と云はなくてはなりまん。

併し、たとへかうした戰時に特に子供の健康が惡くなる虞は無いとしても、これから十年、二十年の間の戰爭を考へると、その戰爭を闘ひぬく最も大切な力の一つは、身體の強いことでせう。健康でせう。ですから、このことを考へると今後の家庭の教育では、子供を丈夫に育てる、強く育てる、そして將來日本の國の力強い荷ひ手になる人を育てることを念願しなくてはならないと思ひます。

さて、かうして戰時下の家庭にあつては、子供を強く育て、健康に育てることが極めて大切だとして、ではその強いとか、健康とか云ふことはどう云ふことでせうか。運動が上手なことが丈夫なのでせうか。驅けつこの速いのが丈夫なのでせうか。見たところの強さうな大きいからだをもつた子供が強いのでせうか。わたくし達は、まづこの點について考へて見なくてはならないでせう。

いまこれをいろいろな點から考へて見ると、強いからだ、と云ふことは、これを強靱な體力をもつ身體、と云ふ言葉にまづおきかへて見なくてはなりますまい。この強靱な體力こそ、產業戰士に求められるものであり、又兵士として求

められるものであるとされてゐます。では強くて粘り強いと云ふことは、どう云ふことでせうか。強くて折れない粘り強いことは、何よりも病氣をしないことが第一にその大切なものとしてあげられませう。運動が上手でも、驅けつこが速くても屢々病氣をする子供は、強い子供とは云へません。小粒でも病氣をした事がないと云ふことであればまづ強い丈夫な子供の第一の資格があると云へるでせう。次に粘り強いと云ふ意味から、體力に持久力のある事が求められてゐると云ふことができます。強い勞働に長く耐へられると云ふことは、軍隊の行軍をする場合の事を考へても、不眠不休の戰鬪に耐へられなくてはならぬと云ふことを見ても、産業に從ふものがどうしても長く強い勞働をしなくてはならないことを考へても、極めて大切なことゝ云ふことができます。

かうして病氣をしないこと、持久力をもつことの上に強い大きい働きのできることをもつけ加へて考へなくてはならぬでせう。重いものを負ひ、大きい働きを



する等は、いはゆる強靱な體力の中に入れて考へなくてはなりますまい。

強い子供、強い國民は、このやうな體力をもつてゐなくてはならぬと云はれてゐます。かう考へて來るとこの強い國民をつくらうとしてゐる家庭の教育は、どう云ふことを考へてゆかなくてはならぬでせうか。

## 生活の訓練

かう云ふ強い體力をもつ子供に育てゝゆかうとする場合、何より最初に考へられるのは、子供の身體の生活のし方を躾けてゆくこと、即ち訓練することです。

この身體の生活の訓練をしてゆく場合、まづ第一に注意しなくてはならないのは、子供の眠　、食事と、排泄とについてです。今日子供の眠りのとり方を見ると、朝は學校にゆく關係で比較的子供が一定の時間に起きますが、夜寢る時間は非常にまちまちです。これは一人の子供についてもさう云はれますし、多くの

子供について見てもさう云はれます。つまりその日によつて子供が寝る時間がまちまちでありますが、子供子供によつてまた非常に違ふのです。つまり子供の眠りについてあまり考へてゐないと見られるのです。併し、子供の眠りは、子供を健康とし、病氣にかゝらないやうにするためには、第一に注意しなくてはならないことでせう。それは子供の日中の活動による疲勞は、この睡眠によつて回復してゆくものなのですから、眠りが不十分だと、疲勞は十分に回復しない、回復しないと病氣に罹り易くなると考へなくてはならないからです。少くとも子供には九時間、慾を云へば十時間の睡眠時間が必要で、幼ければ幼い程多いことが必要なのです。ですから、一定の時間に起きるためには、一定の時間に寝るやうに躾けてゆかなくてはなりません。尙ここで、早く寝て早く起きる方が、晩く寝て晩く起きるより眠りの効果があること、子供は獨りで眠らなければ、眠りの効果が殺がれることは、附け加へておく必要があるでせう。



次は食物のことですが、食事に偏りが無いやう、好き嫌らひ食べたり食べなかつたりすることのないやうに、大體一定の時間に、一定の分量を食べてゆくことの必要なこと、食物に榮養の缺けることのないやうにすることが、また健康の根本であることは、誰でもよく知つてゐることでせう。殊に今日食物の種類が充分でない時には、特にこのやうな注意が必要ですが、それにはお母様方の心遣ひが必要であるばかりでなく、子供を躾けてゆくことも大切なことです。そしてこの躾けによつて無暗な間食をしないやうに、食物の好き嫌ひを無くするやうにすることは、また一面から子供の意志を鍛へてゆく上にも大切な意味をもつてゐると云はなくてはなりません。

排泄、特にお通じを規則的にすることは、子供の健康の上に大切なことであることは、すでに誰でも知つてゐることですが、この躾けが缺けてゐる子供は決して少くないやうです。この點についても子供の健康を考へやうとする場合今日よ

り一層注意する必要があるでせう。

かう云つた事を、心がけてゆく場合、眠りを充分に規則的にし、食事も規則的に、お通じも規則的にと云ふ事になれば、子供の生活を全體として規則的にしてゆくことの必要が當然考へられるでせう。この戰時下に於ては家庭に人手も無いことで、お母様も外へ出なくてはならぬ度數が多くなり、子供を一つ一つ見てやることもむづかしいので、かう云つた子供の生活を規則的にすることについては相當に骨が折れませうし、中にはそのやうな手間をかけることは到底この人手の不足の場合できさうもないと仰言る方があるかも知れませんが、併し、わたくしに云はせれば、それなればこそ、かうして子供の生活を規則的にしなければならないと思ふのです。と云ふのはかうして子供の生活を規則的にすることは、その骨折りをすれば、あとは子供は少しのはじめこそ骨が折れませうけれども、その注意でその習慣に從つて生活しますから、お母さんが一つ一つ世話をやく必要も



無いことになるのです。そしてその習慣に從つて子供が生活することで、健康的な生活をしてゆくことができるでせう。その意味で、最初の骨折りを辛抱してかう云つた生活の躾けに努力して頂かなくてはならぬと思ふのです。

尙かうした子供の健康のための生活訓練として、衣服についての注意と、清潔な生活についての注意とをしてゆくことが大切でせう。衣服については、自分で仕末し、自分で着る習慣をつけることゝ、薄着の習慣をつけることが大切でせう。又、清潔な生活については食前に手を洗ひ、毎朝毎晩口を嗽ぐこと、外にいつて歸つたら、含嗽をすると云ふ風のつけるべき習慣がいろ〳〵あるでせう。かう云つた事もその習慣をつけることは、はじめは骨が折れるでせうが、習慣さへつけば子供が獨りで衛生にかなつた、また自分のことは自分でする生活が自然に營まれるやうになりますから、身體を丈夫にする道であると共に、結局はお母様の手を省く道でもあるのです。はじめに面倒がつて習慣をつけるのに骨を折らな

いお母様は、最後まで勞力が減じないばかりか、一層世話がやけるやうになると云つてよいでせう。良い習慣がつかない事は、惡い習慣をつける事になりますから、それを直すことに氣を焦らせ、骨を折らなくてはならなくするでせうから。

凡そかう云つた注意をして子供の生活を訓練する事は、子供の日常の生活に無理を作らず、榮養も、睡眠も充分にし、病氣の入つて來る門を閉ぢる結果になるのですから、これによつて子供の健康を作つてゆく上に大きい効果があると云はなくてはなりませんが、かうして日常の生活を躾けて健康を作ることは、一方子供の將來の健康を約束すると共に、萬一空襲などのあつた場合にも、この日頃の躾けで作られた身體の力によつて、大きい變化にも耐へてゆくでせうし、またその間にあつてもできるだけ日頃の生活を續けてゆくやうな風になつてゆくと考へられます。たとへば、子供が一定の時間に眠る習慣がついてゐれば、子供はお客様で賑かでも、お祭りが面白くても、その時間には眠るやうに、混雜の場合にも



その習慣は自然に現れて、眠りを不充分にするやうなことも少くなるだらうと考へられるのです。併しまた、たとへさうでなくても眠りの不足に耐へることは、常日頃睡眠の不規則な子供に比べたら、强いだらうと思はれるのです。

生活の訓練のやうなことは、平時でも充分大切な事ですが、戰時下に於ては、より一層生活の落ちつきを作る上にも、健康を培つてゆく上にも、また人手の不足を補つてゆく上にも考へ、かつ實行して頂き度いことです。

## 體力を培ふ

生活の訓練は、子供の强い體力を作る上の、いつて見れば消極的な方面とも云はれるでせう。子供の强靱な體力を作つてゆくには、尙その上に、運動力を强くし、その運動を持ちこらへる力を作る上の注意がなされなくてはなりますまい。子供の體錬がそこに大切になるわけです。

生活の訓練のやうな事は、家庭が子供の生活を預かつてゐるわけですから、家庭の教育にその大部分の責任がかゝつてゐると云はなければならないのですが、この種の體錬は、學校の體錬に多くの期待がかけられると云つてよいでせう。併しまたこれに應じて家庭に於ても子供の身體を鍛錬し、運動を適當に行はせることについては亦考へなくてはならぬものがいろ〳〵ある事と思ひます。

まづ子供の運動力や耐久力を作つてゆくには、家庭の勤勞を子供に課してゆくことが考へられませう。掃除をさせるとか、家業の手傳をさせるとか、家事の手傳をさせるとか云ふ事がそれです。かう云ふ事は、一つの目的を果すために、そこまで耐へてゆかなくてはなりませんから、その勤勞の課し方で運動にもなりますし、耐久力を養ふことにもなるでせう。例へばお家の用事を足させるために、走つていつて來ると云ふことは常平生それが與へられゝば子供の走る力を増すことにもなりますし、それが目的をもつてゐますから、その目的を果すためには少し位苦しくても、それをやつてのけようとするために、耐久力を作ることになりませう。家の周りの整頓や掃除をするためには、筋肉を働かせなくてはなりませんから、それが常に子供に課せられゝば、子供はそれで運動力を強くすることもできますが、また、疲れてもとにかくそれをやつてしまはなければならないのでまた耐久力をつけることになりませう。

かう云つた、日常の生活の機會を通して子供の體力を作ることが、家庭の體錬の大きいものだと云ふことを心において頂き度いと思ひます。何も體操をやらなくても、競技をやらなくても子供の體力はかう云つた機會についてゆくのです。あの農村の子供の體力のやうなものは、學校の體錬——これは都會も、農村も同じものですが——と云ふよりは、かうした生活の中で鍛へられる機會が多いことによると云はなくてはなりますまい。學校への遠い道の往復、農事の手傳、さう云つたものが日常子供の體力を養つてゐるわけです。ですから、そのやうな事を

も輕く見ないで、家庭の教育で、常にその機會を把えることを工夫してゆかれることが大切でせう。

家庭の體錬と云ふべきものは、かうした日常の生活を通して訓練を第一としますが、尙毎朝ラジオ體操を一家揃つてやるとか、日曜日には都會の子供など、リュックサックを背負つて遠足するとか、さう云つた體錬の方法をとることがまた望ましいことでせう。もし一家揃つてできないやうな場合には、子供だけでもラジオ體操の會に出すとか、子供達の仲間を誘ひ合せて遠足をするやうにすゝめると云ふことを工夫されたいものと思ひます。

こゝに、かう云つた體力を子供に培つてゆく上に注意すべきことは、この種の體錬は、子供の現在の體力を基にして、徐々にやつてゆくことが必要だと云ふことです。よく見ることですが、子供を鍛へるために遠足をすると云ふやうな場合に、突然重い荷物を背負はせて、初等二三年の子供に三里も四里も歩かせると云



つた事をする人があります。これは子供相應と云ふことを無視してゐるとも云へますが、またこのやうな體錬はだん〳〵強くなされなくてはならないと云ふことを忘れてゐるとも云はれ、たゞやりさへすればよいと云ふ無知な考の現れとも見られない事も無いのです。歩くことなどは慣れと云ふ事がありますから、たとへ初等三年であつても、二里半位の道は歩けるでせう。併しそこまでゆくには、少くとも最初は二度は二キロ、次の三度は三キロと云ふ風に、月に一度なり、二度なりの遠足でだん〳〵慣らしてゆかなくてはならぬでせう。そこに鍛へると云ふことの意味があるでせう。それをはじめから突然最高の距離を強ひると云ふやうな事は鍛錬ではなく、亂暴と云ふものです。ですから、家庭で子供に課し ゆく體錬と云ふべきやうなものも、幼い子供には輕く、そしてだん〳〵強く課してゆく方針をとらなくてはなりません。今日かう云つたものゝ標準が無いのは遺憾ですが、お母様方は、毎日子供を見てゐられるのですから、まづこの子供ならばこ

の位は大丈夫と云ふところからはじめられて、それからだん〳〵強さを加へるやうにしてゆかれたならよろしいと思ひます。

かう云つた子供の體力を強くしてゆく工夫は、特に戰時下であるからどうと云ふことは無いと思ひます。たゞ併し、將來子供が負ふべき責任を充分に果すやうにこの戰ひの前途について考へる場合には、是非ともこの際、これまでさう云つたことを考へてゐられなかつた家庭に於ても、實行に入つて頂き度いと思ひます。

以上のやうにして、體位の向上と云ふことのため、この戰時下、家庭が考へてゆかなくてはならぬことは、平時に於ても行はなくてはならぬ事を、この戰時に於て強い自覺の下に強く考へて行つてゆくと云ふことにあるのですが、この平常の生活について充分の考をしてゆくことこそ、この戰時の心構へであると云ふことができるでせう。

## 四、東亞の指導者として

### 島國根性を棄てよ

さて困難に耐へ、體力を鍛へることは戰時下の家庭教育に最も大切な事ですがこの度の戰爭が東亞人の東亞を築くための戰爭であることを思ひ、戰爭と共に建設の完遂を期することを考へ、しかも日本人はその指導者として働かなくてはならない立場にゐることを思ふと、わが日本の子供は、この東亞の指導者としての資質を今からしつかりと作つてゆくことを考へなければなるまいと思ひます。

これまでわが日本人が海外に發展してゆく場合、よく問題とされたものは、その島國根性と云はれるものです。島國根性と云ふのは、どう云ふ事かは人によつて違つてゐるやうです。心持が小さくて抱擁力が無いとか、コセコセするとか、

日本人同志が互に助け合はないとか、そこに骨を埋める覺悟が足りないとか、いろ〳〵な事が云はれて來てゐるやうです。

海外にある日本人が非常に勤勉だと云ふことはどこにゐる日本人にも認められてゐる長所です。そしてそのためにその地方の産業の開發に貢献してゐることはいくらでもその例をあげることができるでせう。アメリカに渡つた日本人の農業マニラの麻の栽培、アマゾンの農業などそのよい例でせう。たゞかうした勤勉な日本人が、氣持が小さくて、皆の日本人が互に助け合つて、成功した人を助け、新らしい人をひきたてゝゆくやうな事や、皆のものが一緒になつて一人だけがよくなるのでなく日本人同志が助け合つて、共存共榮をたのしむと云ふ風がどうも足りないと云ふやうな事が云はれてゐます。また後進國、たとへば支那や滿洲などにいつてゐる日本人は、一時の利益に眼をとられて、永遠の日本人の發展を考へる考へ方が足りないと云ふやうなこともよくこれまできいて來たところです。

併し、東亞の指導者として、東亞人の東亞を作らうとする日本人の使命を思ふとき、そのやうな心持をもつてゐてはならぬでせう。これを島國根性だと云ふならば、かう云ふものはできるだけ早くこれを棄てて、大國民たる資質を作らなくてはなりますまい。この島國根性を棄て大國民たるには、さま〴〵な事が考へられなくてはならないのですが、そこで最も大切なことの一つとして、利己心を棄てゝ協同する態度を作ることゝ、指導者としての素質をもつこと、進んで海外にゆくことなどをあげることは見當はづれではないでせう。しかもかう云ふ事は、幼い時からの家庭の教育に俟たなければならぬものなのです。そこで次にこのやうな資質を作る道について考へて見ませう。

## 利己を棄て協同するこゝろ

狹い土地のうちに澤山の人間がゐると、とかく自分の事を考へ、自分の利益を

はかるために、氣持の狹い競爭をし、他を排して自分が生きようと云ふ氣持が起り易いことは、少しく考へて見ればわかることです。そこで、利己的に協同しないやうな狹い氣持を島國根性と云ふのでせう。併しこれから支那大陸に渡り、南洋にいつてわが日本人が所謂王道樂土を築かうとするのにそのやうな氣持であつてならない事は云ふまでもないでせう。アジア人の共榮はそのやうなちつぽけな氣持で打ちたてられるものではありません。廣くアジア人の立場を考へ、日本の全體の事を考へ、己を棄てゝアジア人相共に助けあつて、相共にアジアの平和を作つてゆかなくてはなりません。

併し、かう云ふ氣持は、幼い時から利己を敎へられ、自分の事だけやりさへすればよいやうな氣持で育てられ、公のために身を献げることを馬鹿らしいことのやうに導かれた子供には生れて來ません。どうしても幼いうちから互に心を協せ他のために働き、皆と一緒に樂しむべきを樂しむと云ふ氣持を作つてゆかなくてはなりません。



このやうな意味で家庭の敎育に於ても、まづ子供の利己心を戒め、他のために働くことをその實際の生活で實行によつて訓へていつて頂くことが大切です。自分だけよいやうなことは嚴に戒め、自分のすることには責任をもつと共に、互に苦勞を共にし、仕事を共にしてゆくやうな事を實行することは、家庭の生活にも多くの機會があります。さきに述べたやうに子供に困難に耐へる力をつけるためのいろ〳〵な仕事などで、まづ兄弟互に分けあひ、各がその分擔を果すことに努めると共に、力の足りないものには力を貸し、相共に協力してゆくやうに指導することは、一方意志を鍛へることにもなりますが、この協同の心を作るによい機會であると云へませう。このやうな事は、兄弟揃つて學校へゆく場合にも、一緒に勉强する時にも、一つものを分けて食べる場合にも、さう云つた機會は與へられるわけですから、あらゆる機會によつてその導きを與へてゆきたいものです。

併し、かう云つた利己を廢し互に協同し助け合ふと云ふことは、家庭の中だけに行はれるだけではなりません。共はわが家庭だけのことを考へると云ふ狹い氣持を作り易いのです。ですから子供の友達仲間にあつても、電車にのつても、道を歩いても、寛いしかも親切な氣持で、自分ばかりの事を考へないで、他の事をも考へしかも他と一緒になつて力を協せ、また互に助け合ふやうな風に指導することは極めて大切なことゝ云はなくてはなりません。よく子供が教室で算數などをやるのを見ると、自分のしてゐるのを手で掩ひかくして他に見せまいとしてやつてゐるやうなのを見る事がありますが、自分のものは他に見せまい。と云ふ狹い氣持が見えすいて不愉快なものですが、あゝ云つたやうな氣持は、斷然この際子供からとり去つてしまひ度いものです。自分だけが得をしたい。自分だけがよいやうに、進んで云へば自分さへよければよいと云つた氣持はこんなところから出て來るやうに思へるのです。學校へゆくときは皆で一緒にゆく、自分の知つてゐることは他の子供にも教へてやる。他の足らないものは自分のものを分けてやる。變に狹い氣持で競爭はしない。お互が勵ましあつて共に進まうとする氣持さう云つた心持を、子供達仲間の生活に現してゆくやうに、實行してゆくやうに子供を導いてゆくことがなされなくてはならないと思ひます。

かう云ふ氣持を作るやうに作るやうにと心がけて子供を育てゝいつて頂けば、他の家の不幸を喜んだり、他の成功を嫉んだりするやうな氣持も無くなりませう。よく一つ話に出るやうに店が互に競爭をして、互に損をしても負けまいとするやうな狹い根性も無くなると思ひます。そしてそれは世の中を明るくするでせうが、大東亞の天地に活動する日本人が互に無益な競爭をしたり、利己に走つて永久の損害を招くやうにもならず、更にアジア人のアジアのために協力する大國民の資質を高めることにもならうと思ふのです。

## 指導者として

かうして、幼い時から、アジア人のアジアのために心を協せて、働く心持の源を作ることゝ共に、家庭に於てこの際子供を育てゝゆく態度として注意して頂き度いことは、日本人をこの東亞の指導者として育てゝ頂き度いと云ふことです。

指導者と云ふことは、この東亞に於ても、日本人だからと云ふことばかりでなれるのではありません。指導者には指導者として考へなくてはならない性質、心持があるのです。その第一に必要なことは、抱擁力をもつと云ふこと、他に對していたはりの心をもつと云ふことです。上にたつて下のものを率ゐ、共に共同の目的に進まうとするものには、何と云つてもこの同情心、いたはり、清濁合せのむと云ふ氣持、過ちをもまた溫く抱くと云ふ氣持がなくてはなりません。たゞ威張つて人を脅して以て率ゐると云ふやうでは到底他を指導するなどゝ云ふことは



思ひもよらないことです。勿論指導をするものには毅然たる態度が無くてはなりません。信念をもつて、規律すべきことは規律し、命ずべきことはどこまでも命じて實行を求めると云ふ態度がなければなりません。併し、その一方には必ず親切ないたはりの心が無くてはならないのです。島國根性はぢきにお山の大將になりたがるのです。そして指導される立場にゐる人に威壓を加へたり、自分勝手をしたりして、同情親切の態度が缺けるやうになり易いのです。それではなりません。昔から恩威並に行はれるのは名將の資格とされてゐますが、その氣持こそ大國民の氣持だと云つてよいでせう。

指導者は尙、快活でなくてはなりません。また自分で考へ出してゆく創造的精神が無くてはならないのです。さう云ふ人であつて、はじめて立派な指導者になることができるのです。

これからの日本人は、東亞の指導者として內には堅い一つの信念をもつて、そ

れをどこまでも押し進めてゆく強い意志をもたなくてはなりませんが、それと共に他に對してはいたはりの心を豐かにもち、快活で、創造的な精神をもつやうでなければならないのです。併しさう云つた心持なり態度なりを、成人になつて突然もたうと思つてもさうはゆきません。どうしても子供の時に、この心持を作らなくてはなりません。こゝに今日のやうな戰爭の時にあたつて、將來に備へる子供の教育の心構えの一つが無くてはならない理由があるのです。

他の立場に對する同情や、親切の態度は、幼い時から、兩親の態度によつて養ふことのできるものです。非常な例外はこれを別として親が他に對して親切で思ひやりの情が強く、他に對していたはりの氣持の強い時に、子供が不親切で、いたはりの心をもたないと云ふ事は少いでせう。それは親の心持が自然に子供の心持の上に及んでゆくからです。ですから上に述べたやうなこの東亞の指導者となる資格は、まづ親の氣持の中に生れなくてはならないものです。女中さんなどに



辛くあたるお母様はそれだけでも、もうこの指導者たる子供を養ふ資格が無いと云つてよいでせう。過ちを許し、困難に同情する氣持をもち乍らやらせなくてはならない事はしつかりやらせると云ふ教育を常にもつてゐなくてはなりません。

かう云ふ親の態度は大切なものゝ第一ですが、その上に子供はだん〳〵成長するに從つて、どんな子供でも指導の位置にたつやうになるのですから、さう云つた場合にこの指導者としての心構へを導いてゆくことが考へらるべきでせう。かうして子供は指導者としての性質を具へ、やがて立派な日本人として東亞の指導者として活動することができるやうになるでせう。それがまた大國民としての資格の一つを作るわけです。

## 子供の眼を廣く

かうして大國民たる資格を作るやうにする一方、子供の眼を廣く世界に、東亞

に向け、進んで東亞の天地に活動する興味と心持とを持つてゆき度いものです。

日本人は、昔から土地に定着して生活して來た國民ですから、外地に活動し、外地に骨を埋めると云ふことを、何となし避けたい氣持が強いやうです。これが滿洲などに移住することを億劫がる理由でもありますが、いま日本がその國運を賭して戰つてゐる東亞の新らしい秩序を完成させるためには、最も立派な日本人が、ドシドシ外地にいつて、この東亞の新らしい秩序を建設することに渾身の力を振ふのでなくてはなりません。

かう云ふ氣持もまた子供に幼い時から浸みこんだものを作らなくてはなりません。それにはお母様方が、子供達に對して、廣く眼を東亞の天地に開き、外地に興味をもたせ、喜んで新らしい天地に活躍しないではゐられない心持を作つてゆくやうに導くことが大切です。

戰時下の家庭教育の心構へとして、このやうな事を說くのは、少しく遠いことに眼を配り過ぎるやうに思はれる方があらうかと思ひますが、今次の戰爭の目的から考へ、また子供は忽ちに成長して、やがて國家をその雙肩に荷ふことを考へると、このやうなことも決して、迂遠でも無く、突飛でもない事がわかると思ひます。

## 五、敵襲に備へて

### こゝろの備へ

以上述べたところは、この戰時下子供がその生活に耐へてゆくことゝ、將來の國民としての準備をしてこの戰爭の目的を完遂するための家庭教育の心構へと云つた事でした。がこゝに今日の戰時下のさし迫つた問題としてでき得る限りの子供の訓練の求められるのは敵襲に對する心構への導きです。

大東亞戰爭については、何れにせよ莫大な數の飛行機をもつてゐる米國を敵としてゐるわけですし、またその航空母艦の殘存するものもありますし、南では敵を充分粉碎しましたが、まだ北の方の問題があるので、空襲は、あり得るものと考へなくてはなりますまい。

さう云ふ場合には、地に高射砲があり、それを防ぐためにわが飛行機は充分な活動をすることは、豫想するに難くないでせう。ですから大編隊で日本の土地に空襲して來るやうな事は無いだらうとされてゐます。併し、たとへ一機でも來襲すれば、爆彈を投ずるでせう。それによつて起る事柄も想像に難くないのです。併しそのやうな時にも、沈着事に處し、秩序正しく動きさへすれば、さして恐るゝに足らないと思ふのです。けれどももし周章狼狽して、なすところを知らずと云ふ風になり、秩序を亂して動き騷ぐと云ふやうであつたら、それから來る人心の動搖、また適當な處置を失ふやうになることなど、恐るべき結果を來しはしないかと思ふのです。殊に子供に關係してこの事がより一層强く感ぜられるのです。空襲ときいて子供が泣き叫び、混亂して逃げまわり、恐怖して度を失した動きをすると、そこから來る禍の方が、空襲から來る損害より大きいものがあらうとさへ思はれるのです。殊に敵襲に際しては、物の備へも大切ですが、心の備へはより一層大切なことに思ひを致して、子供の心の備へをつくつていつて頂かなければならないと思ふのです。

## 恐れるな、恐れさせるな

敵襲に對して、何と云つても最も大切なことは、恐れないと云ふことだと思ひます。勿論空襲に對して警戒して備へをすることは必要ですが、それは恐れることを敎へるのではありません。「空襲は恐ろしい」「空襲されたら、忽ち火事になる、火の海になる」と云つた、たゞ空襲は恐いものだと云つてそれを振りまくこ

とは、結局常平生から恐怖心を作り、いざと云ふ場合に強い恐怖を起すと云ふ役目しかもつてゐません。恐怖すると云ふことは、人を冷静にしておきません。冷静にしないと云ふ事は、この恐ろしさのために適當な處置をする判斷を失はせるものになります。つまり周章狼狽して事を失ふことになり易いのです。ですから、わたくし達成人もこれを恐がつてはなりませんが、子供にも恐がるやうなお話をしたり、慘憺たることを云つて脅かすやうな事があつてはなりません。むしろ事を過らなければ決して恐れるに足りない事をよくその心に植ゑつけておかなくてはなりません。

さて、そこで、常平生子供に對して恐怖を植ゑつけないと共に、もしもの事があつても、お母様方が度を失して恐ろしがるやうな事のないやうにしなくてはならないのですが、それには前以て備へるところがなくてはなりません。恐ろしさの心は、人がどうしてよいかわからない時に起るのですから、恐ろしがらないやうにするためには、このどうすべきかについて豫め準備するところがなくてはならないのです。そこに防空演習の必要があるのですが、家庭の防空には、たゞ火を消すとか、燒夷彈がおちたときどうするかと云ふやうな直接それをどうするかと云ふこしに備へると云ふだけでは足りません。防火擔任者は、火を消すでせうが、そのあとに殘つた子供はどうしますか、子供が泣き騒ぐ、走りまわると云ふ事になつたら、これはおそらく火を消すなどに力を盡すことはできないでせう。どうしても家庭の防空と云ふことは、家中のものをどんな風にその場合處してゆくかについて豫め備へておくのでなくてはなりません。敵襲に備へて家庭が子供を導いてゆくことは、實にこゝにその問題があるのですが、併し、實際の防空には、この家庭の備へが無くては他の備へはおそらく無駄にさへなるのではないかと思はれます。

## 家庭の備へ

こゝで子供が空襲を恐れて度を失しないやうに、また親もこれによつて周章狼狽しないやうにするため、いはゆる萬全の策を講ずる第一の問題になるのは、空襲の場合の子供達のとるべき身の仕末について、家族が全體でどんな風の役割をもつかを豫めきめておいて、防空演習などの時には、それをその度毎に練習することが大切でせう。老いたおばあさんや、おぢいさんは、どうするか、小さい乳呑子はどうするか、それがまづきめられなくてはなりません。長女はおぢいさん、次女はおばあさんにつく、とか、赤ん坊はお母様が見守る、幼い子供はお母様の傍につき、それを次女が手傳ひ、防火の擔任者には長男と長女とがそれにあたると云つたやうな、凡そ防空のために、それに直接あたるもの、子供を護るもの、大切な物についてこれを護るものと云つた分擔を定めて、いつでもその姿勢がと



れるやうにして、家では、空襲の場合このやうにするのだから、少しも不安心はないのだと云ふことを實際に子供について知らせ、同時に子供達も一人一人その分擔の責任を果す心構へを作ることが大切なのです。かうして、その場合の身構へができてゐれば、防火にあたるものは、專心それにあたれるでせうし、家の中を護るものも安心して、自分の持場を果すことができるわけですから、そこに一つの安心があるわけです。もしかう云つた備へがないとしたら、防空演習のときはお母さんが甲斐甲斐しく働いておられても、いざと云ふ時に幼い子供が泣きわめきながら走りまわつたり、家の中の始末を誰と云つてするものがなく、大きい子供までウロウロすると云ふことになつたら、お母様は防火のための姿勢などはとれるものではありません。ですからこの常平生の分擔を定め、家も外も共に守れるやうにしておくことは、敵襲に對する第一の備へだと云つてよいでせう。しかもかう云つた事は、家に對して子達が協同してゆく心持をもまた訓練すること

にもなるのです。

併し、かう云つても、どの家庭でも、このやうな配置をしてゆくのに、丁度子供の數も、大きさも都合よくゆくと云ふ場合ばかりではありません。たとへば幼い子供が多くて、お母様は外に出て防空のために働くことのできないやうな場合があります。それが一軒きりならばよいですが、かう云つた家庭の多いやうなところでは、そのやうな場合どうしようもありません。そこでわたくしはこのやうな場合に、隣り組の家庭が全體としての分擔配置を定めて、それによつて子供達を訓練してゆくことを考へなくてはならぬと思ふのです。たとへば空襲の場合には子供達は全部一軒の家に集め、それとその家のお母様が預るやうにする。そして他の人達は專ら隣り組の防空、防火にあたると云ふ風にきめて、それをいつも練習するやうにして、子供を訓練してゆく、そしてその訓練にあたつては、いつも子供が順序を守り、秩序を亂さないやうにすることを心懸けるやうにすることが



大切です。このやうな訓練も亦子供が秩序を守り、殊に隣保相助ける協同の精神の訓練にもなることです。

以上のやうにして、今日わたくし達は、敵襲に備へるの要があるのですが、その場合に物の備へより一層心の備へを堅くするの必要に思ひをいたし、子供達を恐れさせないやう、それには親が恐れないと共に、これをどう處置するかについて、常平生からその分擔を守り、身を處することを訓練してゆくやうにすることが、この戰時下の家庭が特に子供の訓練として考へられなくてはならぬ事と云ふべきでせう。

## 六、明るく育てよ

### 明るい態度

かやうにして、戰時下の子供は、どこまでも困難に耐へるやうに、身體を強くするやうに育て、また他日東亞の指導者としての資質を作りつゝ、第一の敵襲に備へるとふやうな心構へでその指導がなされなくてはならないと思ふのですが。併し、この場合ともすると陷り易いことは、困難に耐へるやうにと云へば、たゞ苦勞をさせさへすればよいと子供に困難を强ひてそのために子供が暗い氣持になつて、いぢけるやうになり、また生活を規則的にすると云ふと、尤も規則規則と一から十までやかましくして、ために子供は器械のやうに動くが潑剌とした元氣が無くなると云つたことです。

併し、さう云ふ事になると、子供たちは、小さく、せゝこましく、縮みこんでしまつて、伸び伸びとしません。これはまさに大國民たる資格が無いと云はなくてはなりません。

ですから、子供はどこまでも伸び伸びとして元氣よく、潑剌として子供の生活を樂しみながら立派な國民になつてゆかなくてはならないのです。子供を困難に耐へさせると云へばたゞ重い荷物を背負はせて嫌でも何でもそれを背負はせる、氣持がいぢけやうが、反抗心を起さうが、無理と抑へてゆくと云ふのであれば、これは實に單純なこと、誰でもできるでせう。生活を規則的にすると云へば、ただ器械のやうに動かして、子供の自由を全く無くしてしまふと云ふのであつたらこれまた極めて簡單で成人の腕力でもできない事はありますまい。併しさうなつた子供の生活を考へると、それでは子供は決して伸びてゆきません。それをさうならないやうにしかも意志を强く、生活も規則的にするといふところにむづかしいところがあると同時に、そこに心を用ひて子供を育てる必要があると云ふものでせう。

さてかうして伸び伸びと明るくこの戰時下の家庭の教育を司つてゆかうとする場合、何よりも最も大切な事は、すでに屢々述べたやうにお母様の心構へ、態度

を明るくすることでせう。

戰時下の生活の困難を何と云つても日常の生活で最も背負つてゐられるのは、お母様方であると云はなければなりません。お父様方は外で忙しい。時には出征してゐられる。人手は足りない。生活するための物が足りない。買ひ集めるのに一通りの努力では足らない。家庭の防空は喧ましくしなくてはならない。さう云ふ事は、實に數へるに遑のない譯です。さう云ふ中にあつて子供を立派に育てゝゆくと云ふ事は決して一通りの苦勞ではありません。ともすると愚痴の出るのもまことに尤もと思はれるのです。併し、子供を明るく育てゝゆくには、かう云つた苦勞の中にあつて、それに勇氣を奮つて、喜んで耐へてゆかれることが何より大切です。このお母さん方が苦勞に挫けて愚痴をこぼしたり、不平を少しでも口にだしたりするやうな氣持は、子供に直接に響いてゆくと同時に、子供を導いてゆくにも、その氣持からがみ〳〵云つたり、怒つたりするやうにもなりますから



その影響も大きいと云はなくてはなりません。お母様方は、その意味に於て、自分自ら國家の難に赴くと云ふ氣持によつて國民として立派な心構へをもつと一緒に、子供達を立派に育てるためにも明るい氣持でこの困難をのり切らうと云ふ心持をもつて頂かなくてはなりません。

かうして明るい心持で家庭のことを處理してゆく事は、極めて大切な事ですがさう云ふ氣持と共に、或はさう云ふ氣持で、家事を處理されて、そこに生活の餘裕を作ることが大切です。今日の日本の家庭は、その生活をしてゆくのに實に澤山の仕事をもつてゐます。或はどうしてもよいやうな事も、そこに却々除かれずにあるのではないかと思はれるものもありますし、戰時下の家庭としては、これまで通りにやることの困難なまた、やらなくてもよいことまで續けてゐるやうな事があるやうに思はれるのです。家の中の掃除、生活の樣式にもいく多のさう云つたものがありませう。子供のおやつに必ず菓子を與へるなどゝ云ふことに非常

な骨を折ると云ふやうな事もこの際考へ直さなくてはならぬ一つでせう。さう云ふ事をもつともつと考へて見て、そこに生活の餘裕を作ることは子供を立派に育てる一つの基をなすものとも云はれませう。

かう云つた家庭の生活を整理することゝ共に心の餘裕を作るには、お母様方の生活を規則的にしてゆくこと、ひいては家庭の生活全體を規則的にしてゆくことでせう。それにはお父様方の生活を規則的にしなくてはならぬ事がすぐに考へられることですが。

戰時下の家庭で、この困難をのりきつて、家庭の教育が明るい氣持でなされるには、以上のやうなお母様自身が明るい氣持をもたれること、その上心に餘裕をもち、生活の餘裕をもつて子供を導いてゆくために、家庭生活の整理を考へられることが大切であらうと思はれます。

## 子供には子供の生活を

このやうにして、戰時下の家庭に於ては、指導の立場にたつお母様がまづ自分自ら朗かに明るい氣持をもち、生活に餘裕をもつやうにする事が、子供を困難に耐へ乍ら明るく、生活を訓練され乍ら朗かに成長してゆく道として大切なのですが、これと共に尙子供の教育についての遣り口、乃至は家庭生活の營みの上にもこの心持を伸した實行が欲しいものです。

それは、家庭教育の態度をいつも、子供の立場にたち、成人の定規にだけあてはめようと考へないと云ふ事です。子供は成人の眼から見れば、不完全なものに違ひありませんし、成人の眼から見るとくだらぬ事に興味をもつとも云はれませう。併し、子供には子供の達くことのできる程度もあり、またくだらぬやうに見えても、子供の生活にとつては大切なこともあるのです。そこで成人の立場から

これもくだらぬ、これは面白くないと、あれもいけない、これもいけないと、禁壓するやうな態度をとつたり、たゞ成人の要求ばかりを基準にして、それに達することだけを考へて喧ましく云ふと、子供の立場は無くなつてしまひませう。困難に耐へると云つても、この意味で子供には子供の程度があります。また子供には外からの勇氣づけが必要なのです。生活を規則だてると云つても、子供の眞の要求である遊びの生活などを無視してはなりませんし、また規則的になるまでは不完全な狀態をもよしとして勵ましてゆかなくてはなりません。そこに子供には子供としての生活の立場からの導きがあるので、それあつてはじめて子供は潑剌として伸びてゆくことができるのです。

そこで、以上述べたやうな戰時下の子供の教育をしてゆくにあたつては、生活はどこまでも規則的に、正しい規律に從つてゆかなくてはなりませんが、その中に子供が元氣よく遊ぶことは、充分に認めてゆくやうにすると共に、これが奬勵と指導とを怠らないやうにしたいと思ふのですが、子供が生活の訓練をされ、忍耐心を强めるやうな鍛錬をうける一方、家庭の團欒をいやが上にも濃く、子供たちの心持を私かに、樂しくして、ゆくことが極めて大切だと思ひます。つまり一方では强い訓練を、一方では溫い覺悟を子供の上に注いでゆくやうに心がけることが必要なのです。戰時は、何と云つても人々の心に不安、また暗い心持を誘ひ易いことは云ふまでもありまんが、かうしてその氣持からの暗い影響を子供に與へず、しかもしつかりした將來大國民たるに相應しい子供に育てゝゆくと云ふ事がお母樣方に與へられた任務と云ふべきでせう。

戰野に父を送つてゐる子供の上には、これ等の家庭教育の態度が、より一層深くとられて眞に勇士の子供であるやうに、將來立派な國民としての意志の力と、明るさをもつやうに指導されなくてはならぬことは云ふまでもないでせう。それはその立場から以上のやうな心構へを考へて頂けば、より一層痛切にこれが感せ

られると思ひます。

意志の強い國難に耐へる子供、からだの強い子供、しかも明るい潑剌として成長する大國民の心をもつ子供、これが今日、また明日の日本に求められる國民です。そしてその國民を育てるのはお母様方です。この事をしつかりと、心において頂き度いと思ひます。



研究資料
戰時下の家庭教育
定價金參拾五錢
送料金參錢

昭和十七年四月二日印刷
昭和十七年四月六日發行

編輯兼發行人　東京市芝區芝公園十二號地　財團法人社會教育會內　天野茂雄
印刷者　東京市神田區鎌倉町十九番地　柏木榮一
印刷所　東京市神田區鎌倉町十九番地　明治印刷株式會社
發行所　東京市芝區芝公園十二號地　財團法人　社會教育會　（文協番號　二二二〇〇一）
配給元　東京市神田區淡路町二ノ九　日本出版配給株式會社

4
5